

事務事業調書

平成27年度

事業No	805	課	文化振興課	係	文化財係	起案者	齋藤弘之
						決裁者	牧浩之
事務事業名	文化財保護事業				事業種別	市民サービス	

1 事業概要

総合計画体系	4 個性と文化を育む環境づくり 4 文化・芸術 2 文化財 2 文化財の保護と育成 1 調査・保存管理の推進		予算科目(会計)		一般会計				
			予算科目(款・項・目)		50-25-70				
			総合計画以外の計画						
			関連する総合計画の施策						
			性質区分	法律などで実施が義務付けられているもの					
根拠法令	有	文化財保護法、愛知県文化財保護条例、安城市文化財保護条例							
法定受託事務	無								
公約・議会答弁	有	H25.12定例会：歴史のまちづくりについて H26.3定例会：本證寺周辺の整備について H27.3定例会：文化財							
陳情・市民要望	有	H13二子古墳周辺整備 H17姫小川古墳保護 H21福釜農業倉庫保護 H26古井戸跡存続について							
実施方法	直営		委託先						
実施期間	開始	昭和36年度		経過	54年目	終了		期間	
求める成果 (目的)	誰(受益者)が		地域住民が			～になる		文化財を核にまとめることで、誇りと連帯感が生れるようになる。	
事務事業の内容	安城市内の文化財を保護することを目的とする事業です。 本事業では、文化財保護委員会運営と文化財指定、史跡説明看板整備、害虫駆除のよる天然記念物保存等を行っています。また、国指定史跡本證寺境内整備事業についても本事業で進めています。								
改善・対策の履歴	【平成21年度】本證寺内堀のハスを再生させるため、外来生物駆除による環境整備事業を開始しました。 【平成24年度】桜井神社クロマツの害虫防除対象を胸高囲40cm以下のものまで拡大しました。 【平成25年度】文化財指定事務を明確化するため、指定基準を作成しました。 【平成25年度】本證寺境内の国史跡指定のため、保存活用基本計画を策定しました。 【平成26年度】指定文化財の管理調査制度を改善しました。 【平成26年度】桜井古墳群保護のため、桜井古墳群保存管理計画を策定しました。								

2 事業費(千円)、人員推移(人)

項 目	平成24年度	平成25年度	平成26年度		平成27年度
	(実績)	(実績)	(予算)	(実績)	(予算)
総事業費	16,351	22,001	18,581	18,631	83,870
財源計	5,389	13,937	10,517	9,307	74,546
財源の内訳	国庫支出金	0	0	0	19,149
	県支出金	0	0	0	0
	市債	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0
	一般財源	5,389	13,755	9,307	55,397
受益者負担金	0	182	0	0	0
職員人件費 (従事職員数)	10,962 (1.74)	8,064 (1.28)	8,064 (1.28)	9,324 (1.48)	9,324 (1.48)
人事課予算分 人件費	0	0	0	0	0

3 各活動にかかるコスト			年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
活動1	活動名 (活動内容)	天然記念物害虫防除	見込	31.00	50.00	50.00	50.00
			実績	50.00	49.00	51.00	
	指標名 (単位)	防除件数(件)	活動の総事業費(千円)	1,229	1,313	1,441	
			活動にかかるコスト(千円)	24.58	26.80	28.25	
活動2	活動名 (活動内容)	文化財保護委員会	見込	4.00	4.00	4.00	4.00
			実績	4.00	5.00	4.00	
	指標名 (単位)	開催回数(回)	活動の総事業費(千円)	1,011	915	875	
			活動にかかるコスト(千円)	252.75	183.00	218.75	
活動3	活動名 (活動内容)	本證寺内堀環境整備事業	見込	1.00	1.00	1.00	1.00
			実績	1.00	1.00	1.00	
	指標名 (単位)	環境整備事業の実施(式)	活動の総事業費(千円)	1,575	1,575	1,584	
			活動にかかるコスト(千円)	1,575.00	1,575.00	1,584.00	

4 成果指標と実績の推移

指標名(単位)				年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
成果1	指定文化財の指定件数(件)			目標	216.00	218.00	220.00	222.00
				実績	218.00	220.00	222.00	
	目標達成年度	平成27年度	目標成果指標値	222.00	達成状況	達成	達成	達成
	本證寺内堀での花の開花(箇所)			目標	2.00	2.00	2.00	2.00
成果2				実績	1.00	2.00	2.00	
	目標達成年度		目標成果指標値	0.00	達成状況	未達成	達成	達成

5 成果1、2以外の成果

成果	本證寺境内が国史跡に指定されました。 本證寺境内整備事業が実施計画で採択されました。 桜井古墳群保存管理計画を策定しました。 文化財保護委員が指定文化財の管理調査を実施する制度を改善しました。 古くなった史跡説明看板の更新予算を確保しました。
----	--

6 各活動にかかるコストと成果の分析

内部の取組や外部要因が与えた影響、課題等	
活動コスト	天然記念物害虫防除および文化財保護委員会の事業費の変化は、担当職員数(人工)の変更と委員会開催回数、入札の落札額の変化によるものです。 事業全体でみた場合、平成25年度は本證寺境内保存活用基本計画、平成26年度は桜井古墳群保存管理計画策定のため事業費が増加しています。 また、平成27年度からは、本證寺境内整備事業(用地取得)、史跡説明看板更新等のため事業費が増加する見込みです。
成果	天然記念物害虫防除と本證寺内堀環境整備事業については、その効果が現われ、成果が継続するようになりました。 本證寺境内の国史跡指定では地元有志による祝賀会とイベントが、桜井古墳群保存管理計画では検討会議の地元委員によるパネルディスカッションが開催され、それぞれの文化財に対する市民レベルでの意識の高揚と地域の絆を強くすることができました。

7 所属長の改善案

コスト・成果について、事業の分析を踏まえた具体的な改善案
改善を加える文化財管理調査については、調査対象と保護委員の専門分野に配慮して下さい。 古くなった史跡説明看板の更新については、ICT対応にするようにして下さい。 桜井古墳群保存管理計画検討会議から提案をいただいた二子古墳保存のための桜井中学との連携については、学校行事等との兼ね合いを考え、春先の実施に向けた学校と調整を急いで下さい。

8 方向性

必要性、効率性、有効性を踏まえた事業の方向性	
拡充	計画通りの史跡公園整備の完成を目指し、本證寺境内整備事業は拡充する必要があります。 桜井古墳群についても、保存および活用整備のため、事業を拡充していく必要があります。 従来の事業(現状の文化財の保存等)については、今後も維持していきます。 今後も、本市の経済状況および文化財周辺の開発状況に応じて、海軍明治航空基地、日本デンマーク時代の建造物、安城城址等の保存および活用整備事業を推進する必要があります。

事務事業調査

平成27年度

事業No	802	課	文化振興課	係	文化財係	起案者	齋藤弘之
						決裁者	牧浩之
事務事業名	郷土史出版奨励事業				事業種別	市民サービス	

1 事業概要

総合計画体系	4 個性と文化を育む環境づくり 4 文化・芸術 2 文化財 4 文化財愛護の啓発 1 文化財愛護の啓発			予算科目(会計)		一般会計				
				予算科目(款・項・目)		50-25-70				
				総合計画以外の計画						
				関連する総合計画の施策						
				性質区分	特定の市民や団体を対象にしたもの					
根拠法令	有	安城市補助金等の予算執行に関する規則								
法定受託事務	無									
公約・議会答弁	無									
陳情・市民要望	無									
実施方法	直営		委託先							
実施期間	開始	平成元年度		経過	26年目		終了		期間	
求める成果 (目的)	誰(受益者)が		出版物の対象地域に住む市民が			~になる		地域への関心を高め、連帯意識が生まれます。		
事務事業の内容	町内会などが編さんした町の歴史に関する本に、出版の補助金を交付します。 また、歴史に関心のある団体等が発刊する郷土史出版物にも、補助金を交付しています。									
改善・対策の履歴	【平成23年度】審査条項など実態に見合った要綱に改正し、24年度から施行しました。									

2 事業費(千円)、人員推移(人)

項 目	平成24年度	平成25年度	平成26年度		平成27年度
	(実績)	(実績)	(予算)	(実績)	(予算)
総事業費	234	0	563	525	0
財源計	171	0	500	462	0
財源の内訳	国庫支出金	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0
	市債	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0
	一般財源	171	500	462	0
受益者負担金	0	0	0	0	0
職員人件費 (従事職員数)	63 (0.01)	0 (0.00)	63 (0.01)	63 (0.01)	0 (0.00)
人事課予算分 人件費	0	0	0	0	0

3 各活動にかかるコスト			年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
活動1	活動名 (活動内容)	郷土史出版奨励事業補助金	見込	1.00	0.00	1.00	0.00
			実績	1.00	0.00	1.00	
	指標名 (単位)	補助件数(件)	活動の総事業費 (千円)	234	0	525	
			活動にかかるコスト (千円)	234.00	0.00	525.00	
活動2	活動名 (活動内容)		見込				
			実績				
	指標名 (単位)		活動の総事業費 (千円)				
			活動にかかるコスト (千円)				
活動3	活動名 (活動内容)		見込				
			実績				
	指標名 (単位)		活動の総事業費 (千円)				
			活動にかかるコスト (千円)				

4 成果指標と実績の推移			年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
成果1	指標名(単位)		目標	1.00	0.00	1.00	0.00
	郷土史出版補助件数(件)		実績	1.00	0.00	1.00	
	目標達成年度	目標成果指標値	達成状況	達成	達成	達成	
		0.00					
成果2			目標				
			実績				
	目標達成年度	目標成果指標値	達成状況				

5 成果1、2以外の成果	
成果	平成26年度は、「よこやま郷土史」が出版され、補助金を交付しました。これまでの実績でいえば、出版された本を読むことだけでなく、編さんの過程を通じて、様々な人と関わる機会が増えることによって、地域の連帯意識が高まっています。

6 各活動にかかるコストと成果の分析	
内部の取組や外部要因が与えた影響、課題等	
活動コスト	行政が主体的に動く事業ではないため、必ず毎年実施されるわけではありません。ちなみに、平成27年度は事前の申請がなく予定がありません。
成果	補助に当たっては、審査条項に基づき、文化財保護委員会で適正に審議した上で交付しています。郷土史の編さん過程において、職員（学芸員）が助言などを行っています。

7 所属長の改善案	
コスト・成果について、事業の分析を踏まえた具体的な改善案	
編さん段階から、職員が積極的に関わっていくべきとの考え方もありますが、市民の主体性を損なわないようにしてください。現在は、印刷製本費の1/3で、上限50万円となっていますが、今後、補助率について増額の議論をしていく必要があると考えています。	

8 方向性	
必要性、効率性、有効性を踏まえた事業の方向性	
維持・継続	地域への関心が高まり、連帯意識が生れることは、市民による住民自治の基礎を形成するものです。その意味で、地域の歴史を編さんする活動への補助は、意味があることだと考えます。ただし、補助率については、要望を聞きながら議論をしていく時期にきています。

事務事業調書

平成27年度

事業No	803	課	文化振興課	係	文化財係	起案者	齋藤弘之
						決裁者	牧浩之
事務事業名	文化財保存事業				事業種別	市民サービス	

1 事業概要

総合計画体系	4 個性と文化を育む環境づくり 4 文化・芸術 2 文化財 2 文化財の保護と育成 2 無形民俗文化財の育成			予算科目(会計)		一般会計	
				予算科目(款・項・目)		50-25-70	
				総合計画以外の計画			
				関連する総合計画の施策			
				性質区分	特定の市民や団体を対象にしたもの		
根拠法令	有	安城市補助金等の予算執行に関する規則					
法定受託事務	無						
公約・議会答弁	無						
陳情・市民要望	有	H23. 6桜井地区文化財保存会「文化財保存活動への助成に関する要望書」					
実施方法	直営		委託先				
実施期間	開始	昭和39年度		経過	51年目	終了	期間
求める成果 (目的)	誰(受益者)が	地域に関心のある市民が			~になる	文化財の価値を享受でき、地域への誇りが生まれます。	
事務事業の内容	安城市内の指定文化財に対し、補助金を交付することで保存・伝承を図る事業です。 無形民俗文化財である三河万歳、桜井町の棒の手及び桜井神社のまつり囃子の後継者を育成するために、保存会による保存・伝承活動の支援をします。また、指定文化財を後世に伝えていくために、修理の必要となった文化財の修理費に補助金を交付します。						
改善・対策の履歴	【平成23年度】 補助対象経費を明確にするなどの要綱の見直しを行い、24年度から施行しました。 【平成26年度】 三河万歳保存会への新会員加入について会員と話し合い、問題意識を共有しました。						

2 事業費(千円)、人員推移(人)

項 目	平成24年度	平成25年度	平成26年度		平成27年度
	(実績)	(実績)	(予算)	(実績)	(予算)
総事業費	2,062	5,039	1,419	1,113	722
財源計	1,495	4,724	1,104	924	533
財源の内訳	国庫支出金	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0
	市債	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0
	一般財源	1,495	4,724	1,104	924
受益者負担金	0	0	0	0	0
職員人件費 (従事職員数)	567 (0.09)	315 (0.05)	315 (0.05)	189 (0.03)	189 (0.03)
人事課予算分 人件費	0	0	0	0	0

3 各活動にかかるコスト			年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
活動1	活動名 (活動内容)	文化財保存事業業務	見込	2.00	6.00	2.00	0.00
			実績	2.00	6.00	2.00	
	指標名 (単位)	交付数(件)	活動の総事業費 (千円)	1,324	4,616	690	
			活動にかかるコスト (千円)	662.00	769.33	345.00	
活動2	活動名 (活動内容)	無形民俗文化財保存伝承事業補助金	見込	9.00	9.00	9.00	9.00
			実績	9.00	9.00	9.00	
	指標名 (単位)	交付団体(件)	活動の総事業費 (千円)	612	423	423	
			活動にかかるコスト (千円)	68.00	47.00	47.00	
活動3	活動名 (活動内容)		見込				
			実績				
	指標名 (単位)		活動の総事業費 (千円)				
			活動にかかるコスト (千円)				

4 成果指標と実績の推移

指標名(単位)				年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
成果1	文化財保存修理事業件数(件)			目標	2.00	6.00	2.00	0.00
				実績	2.00	6.00	2.00	
	目標達成年度	目標成果指標値	0.00	達成状況	達成	達成	達成	
成果2	無形民俗文化財保存伝承事業補助金交付団体(件)			目標	9.00	9.00	9.00	9.00
				実績	9.00	9.00	9.00	
	目標達成年度	目標成果指標値	0.00	達成状況	達成	達成	達成	

5 成果1、2以外の成果

成果	文化財の修理については、文化庁及び歴史博物館等で実績があり信頼がおける業者を紹介しました。その結果、保存状態が適切なら、今後100年以上の保存が可能な状態に修理することができました。 無形文化財については、桜井町の棒の手保存会に10代後半～20代の会員が増え、活気が生れてきました。安城の三河万歳保存会の会員数は29名ですが高齢者が多く、中長期的には対策を講じる必要があります。
----	--

6 各活動にかかるコストと成果の分析

内部の取組や外部要因が与えた影響、課題等	
活動コスト	年度ごとに修理が必要な指定文化財数が一定でないため、事業件数や事業費が大きく変化します。 平成27年度は、指定文化財修理の申請がないため予定がありません。ただし、緊急修理の枠は残してあります。
成果	安城の三河万歳保存会の会員については、これまで子ども向けの講座が各地で実施されて来ましたが、卒業後の会への加入につながっていません。このように、保存会会員の高齢化については、適切な対策を打ち出せていません。

7 所属長の改善案

コスト・成果について、事業の分析を踏まえた具体的な改善案
文化財保存事業補助については、単年度に修理事業が集中しないように、指定文化財の保存状態を把握し、適正な修理時期を見極めるようにしてください。 安城の三河万歳保存会へ若い新会員が加入できるよう、引き続き三河万歳後援会との協力や、HPなどでの会員募集を考えてください。

8 方向性

必要性、効率性、有効性を踏まえた事業の方向性	
維持・継続	無形民俗文化財の保存伝承は、長い年月が必要です。継続こそが重要です。今後は、単に補助金の交付だけでなく、新規会員の募集など、具体的な対策を考えなければならない時期にきています。また、有形文化財は保存修理があってこそ後世に残すことができます。

事務事業調査

平成27年度

事業No	804	課	文化振興課	係	文化財係	起案者	齋藤弘之
						決裁者	牧浩之
事務事業名	文化財調査事業				事業種別	市民サービス	

1 事業概要

総合計画体系	4 個性と文化を育む環境づくり 4 文化・芸術 2 文化財 2 文化財の保護と育成 1 調査・保存管理の推進			予算科目(会計)		一般会計	
				予算科目(款・項・目)		50-25-70	
				総合計画以外の計画			
				関連する総合計画の施策			
				性質区分	特定の市民や団体を対象にしたもの		
根拠法令	有	文化財保護法、愛知県文化財保護条例、安城市文化財保護条例					
法定受託事務	無						
公約・議会答弁	無						
陳情・市民要望	無						
実施方法	一部委託		委託先	その他(名古屋市立大学)			
実施期間	開始	平成18年度		経過	9年目	終了	期間
求める成果 (目的)	誰(受益者)が	地域に関心のある市民が			~になる	「核」となる文化財を知ること、地域への誇りが生れます。	
事務事業の内容	安城市内の文化財を保護していくための、基礎資料となる調査を行う事業です。 平成26年度は、取り壊される建造物を記録保存する建造物緊急調査を行いました。 また、5年間をかけた重要文化財「聖徳太子絵伝」の模写が完成するとともに、本證寺国史跡指定のために報告書を刊行しました。						
改善・対策の履歴	【平成19年度】毎年度の建造物調査の成果を、リーフレットとして刊行し始めました(現在も継続)。 【平成24年度】平成19年度から開始した日本デンマーク時代の建造物(農業倉庫など)についての調査をまとめ、報告書として刊行しました。 【平成26年度】本證寺境内が国史跡の指定を受けるため、これまでの調査をまとめた『雲龍山 本證寺調査報告』を刊行しました。 【平成26年度】重要文化財「聖徳太子絵伝」模写について、国史跡指定答申イベントで公開しました。						

2 事業費(千円)、人員推移(人)

項 目	平成24年度	平成25年度	平成26年度		平成27年度
	(実績)	(実績)	(予算)	(実績)	(予算)
総事業費	12,790	10,273	12,215	9,970	8,674
財源計	7,561	6,934	8,876	7,135	5,335
財源の内訳	国庫支出金	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0
	市債	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0
	一般財源	7,561	6,934	8,876	7,135
受益者負担金	0	0	0	0	0
職員人件費 (従事職員数)	5,229 (0.83)	3,339 (0.53)	3,339 (0.53)	2,835 (0.45)	3,339 (0.53)
人事課予算分 人件費	0	0	0	0	0

3 各活動にかかるコスト			年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
活動1	活動名 (活動内容)	文化財悉皆調査委託業務	見込	1.00	1.00	1.00	1.00
			実績	1.00	1.00	0.00	
	指標名 (単位)	経費(式)	活動の総事業費 (千円)	1,533	1,422	0	
			活動にかかるコスト (千円)	1,533.00	1,422.00	0.00	
活動2	活動名 (活動内容)	建造物緊急調査委託業務	見込	1.00	1.00	1.00	1.00
			実績	1.00	1.00	1.00	
	指標名 (単位)	経費(式)	活動の総事業費 (千円)	1,869	1,806	1,827	
			活動にかかるコスト (千円)	1,869.00	1,806.00	1,827.00	
活動3	活動名 (活動内容)		見込				
			実績				
	指標名 (単位)		活動の総事業費 (千円)				
			活動にかかるコスト (千円)				

4 成果指標と実績の推移

指標名(単位)				年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
成果1	文化財悉皆調査件数(式)			目標	15.00	13.00	14.00	10.00
				実績	15.00	13.00	0.00	
	目標達成年度	目標成果指標値	0.00	達成状況	達成	達成	未達成	
	建造物緊急調査件数(式)			目標	3.00	3.00	3.00	3.00
成果2				実績	3.00	3.00	4.00	
	目標達成年度	目標成果指標値	0.00	達成状況	達成	達成	達成	

5 成果1、2以外の成果

成果	悉皆調査をすることで、埋もれていた文化財の価値に光があてることができました。例えば、根崎八幡神社本殿と東端八剱神社本殿は、建造年代が江戸初期～中期と古く、同一人物が屋根を葺いたことなどが明らかとなり、平成26年度には両社同時に市指定文化財になりました。
----	---

6 各活動にかかるコストと成果の分析

内部の取組や外部要因が与えた影響、課題等	
活動コスト	平成26年度の文化財悉皆調査は、委託先の先生が所属先大学の事情により、実施できませんでした。歴史的建造物の調査という専門性から、調査を委託できる相手が大学等の専門機関に限定されるため、代替が困難でした。
成果	1年間に調査できる建物数には限界があり、建物の建替えなどの開発に追いついていないのが現状です。 現状では、社寺建築を除けば、建造物調査がその後の保存に結びついていません。本来的には、調査すること自体が目的ではなく、保存することが目的です。こうした調査が保存につながるような仕組みが必要となってきました。

7 所属長の改善案

コスト・成果について、事業の分析を踏まえた具体的な改善案
年次計画については、委託先の業務状況などを事前によく調整しておいてください。 また、調査がただ単なる調査にとどまるのではなく、実際の保存へつなげていくとともに、その成果（文化財としての価値など）を市民に還元する方法を考えてください。

8 方向性

必要性、効率性、有効性を踏まえた事業の方向性	
維持・継続	歴史的建造物は、今後の「まちづくり」を考えていくうえでも、その核となる意味が必要です。現在の調査を維持・継続していくとともに、これからは保存と活用まで視野に入れていくべきです。

事務事業調書

平成27年度

事業No	801	課	文化振興課	係	文化財係	起案者	齋藤弘之
						決裁者	牧浩之
事務事業名	文化財啓発事業				事業種別	市民サービス	

1 事業概要

総合計画体系	4 個性と文化を育む環境づくり 4 文化・芸術 2 文化財 4 文化財愛護の啓発 1 文化財愛護の啓発			予算科目(会計)		一般会計			
				予算科目(款・項・目)		50-25-70			
				総合計画以外の計画					
				関連する総合計画の施策					
				性質区分	特定の市民や団体を対象にしたもの				
根拠法令	無								
法定受託事務	無								
公約・議会答弁	有	H20. 9. 4定例会部長答弁（啓発活動推進）							
陳情・市民要望	無								
実施方法	直営		委託先						
実施期間	開始	昭和36年度		経過	54年目	終了		期間	
求める成果 (目的)	誰(受益者)が		地域に関心のある市民が			~になる		歴史を「核」にまとまることで、地域への誇りが生れます。	
事務事業の内容	安城の歴史や文化財の意味や価値を、市民に普及啓発する事業です。 埋蔵文化財センターでの展示のほか、主催講座（夏休み子ども考古学講座、あおぞら歴史教室など）、出前講座などの開催とともに、ボランティアを育成して市民協働活動を行っています。								
改善・対策の履歴	【平成25年度】史跡などを歩いてまわる「歴史ウォーク」を企画し、安城ふるさとガイドの会（ボランティア団体）と市民協働することで実施しました。 【平成26年度】本證寺境内の国史跡指定の答申を受け、桜井地区文化財保存会と協働でイベントを開催しました。								

2 事業費(千円)、人員推移(人)

項 目	平成24年度	平成25年度	平成26年度		平成27年度
	(実績)	(実績)	(予算)	(実績)	(予算)
総事業費	14, 253	11, 957	12, 884	12, 241	13, 240
財源計	1, 401	1, 688	2, 615	1, 846	2, 971
財源の内訳	国庫支出金	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0
	市債	0	0	0	0
	その他	110	83	25	25
	一般財源	1, 291	1, 605	2, 590	1, 578
受益者負担金	110	83	25	268	25
職員人件費 (従事職員数)	12, 852 (2. 04)	10, 269 (1. 63)	10, 269 (1. 63)	10, 395 (1. 65)	10, 269 (1. 63)
人事課予算分 人件費	0	0	0	0	0

3 各活動にかかるコスト			年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
活動1	活動名 (活動内容)	主催講座の実施	見込	7.00	7.00	7.00	7.00
			実績	8.00	8.00	7.00	
	指標名 (単位)	講座数(件)	活動の総事業費 (千円)	734	734	788	
			活動にかかるコスト (千円)	91.75	91.75	112.57	
活動2	活動名 (活動内容)	出前講座の実施	見込	20.00	20.00	20.00	20.00
			実績	16.00	11.00	22.00	
	指標名 (単位)	講座数(件)	活動の総事業費 (千円)	882	567	714	
			活動にかかるコスト (千円)	55.13	51.55	32.45	
活動3	活動名 (活動内容)	ボランティアによる土器づくり教室の開催	見込	200.00	200.00	200.00	200.00
			実績	211.00	221.00	224.00	
	指標名 (単位)	講座開催日数(日)	活動の総事業費 (千円)	281	263	261	
			活動にかかるコスト (千円)	1.33	1.19	1.17	

4 成果指標と実績の推移

指標名(単位)				年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
成果1	埋蔵文化財センター入館者数(人)			目標	13,000.00	14,000.00	15,000.00	16,000.00
				実績	9,313.00	7,592.00	8,476.00	
	目標達成年度	平成27年度	目標成果指標値	16,000.00	達成状況	未達成	未達成	未達成
成果2	啓発イベント参加者数(人)			目標	2,000.00	1,500.00	1,500.00	2,000.00
				実績	3,213.00	1,523.00	4,036.00	
	目標達成年度		目標成果指標値	0.00	達成状況	達成	達成	達成

5 成果1、2以外の成果

成果	本證寺境内が国史跡指定の答申を受けたことを受けて、地元団体と協働で啓発イベントを開催しました。出前講座については、積極的に企画を提案し、回数、人数とも増加しました。埋蔵文化財センターへの入館者は、小中学校の見学学習で土器さわりなど体験学習を導入することで、人数的には増えました。平成27年度には、歴史の散歩道「本證寺」「海軍明治航空基地」の作成予算が採択されました。
----	--

6 各活動にかかるコストと成果の分析

内部の取組や外部要因が与えた影響、課題等	
活動コスト	主催事業の活動事業費が増加したのは、夏休みこども考古学講座に講師として呼び出した、講師謝礼などによるものです。
成果	本證寺境内の国史跡指定にともない、関係した出前講座など啓発イベントが増えました。土器づくり教室について、特に夏休みの子ども向けに積極的にPRしたところ、昨年度実績から大きく伸びました(H25: 487人→H26: 863人)。 埋蔵文化財センターへの入館者を伸ばすことができましたが、毎年1,000人が増加する目標を達成することは困難となっています。

7 所属長の改善案

コスト・成果について、事業の分析を踏まえた具体的な改善案
出前講座など啓発イベントについては、引き続き積極的に提案して実施してってください。その際には、市民協働を念頭に、「市民とともに文化財を保護する」姿勢を示してください。また、時代にあわせてICT技術の導入を考えてってください。安城市が目指す「健幸都市」にあわせて、ウォーキングなど健康づくりの効果も期待できる企画を行ってください。 埋蔵文化財センターへの入館者については、目標自体を見直すか、見学のあり方を根本的に見直すかなど、変更を考えてください。

8 方向性

必要性、効率性、有効性を踏まえた事業の方向性	
維持・継続	歴史や文化財の意味や価値を市民へ広く浸透させて誇りと連帯感(「絆」)を形成していく意味で、今後、力を入れていく必要がある分野です。職員だけでは限界があるため、市民協働をすすめ、ボランティア団体とともに実施していくことになります。また、常に新しい企画を取り入れていなくては、魅力が色あせてきてしまいます。

事務事業調査

平成27年度

事業No	806	課	文化振興課	係	文化財係	起案者	齋藤弘之
						決裁者	牧浩之
事務事業名	埋蔵文化財調査事業				事業種別	市民サービス	

1 事業概要

総合計画体系	4 個性と文化を育む環境づくり 4 文化・芸術 2 文化財 1 歴史博物館・埋蔵文化財センター 2 埋蔵文化財センター		予算科目(会計)		一般会計				
			予算科目(款・項・目)		50-25-70				
			総合計画以外の計画						
			関連する総合計画の施策						
			性質区分	法律などで実施が義務付けられているもの					
根拠法令	有	文化財保護法第92条～第108条、安城市埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例							
法定受託事務	有	開発にともなう発掘調査は、法定受託事務と同等とみなすことができる							
公約・議会答弁	有	H17.9.9市民文教常任委員会答弁(発掘調査成果を埋蔵文化財センターで実施)							
陳情・市民要望	無								
実施方法	直営		委託先						
実施期間	開始	昭和26年度		経過	64年目	終了		期間	
求める成果 (目的)	誰(受益者)が		文化財保護法に基づき開発申請した申請者が			～になる		発掘調査の後、計画通りに建設工事等を実施することができる。	
事務事業の内容	文化財保護法に基づき、埋蔵文化財包蔵地(遺跡)を開発(破壊)する場合に、事前の試掘調査と発掘調査(記録保存)を実施する事業です。 発掘調査後は、調査成果を整理、研究し、報告書を刊行します。出土資料は収蔵保存していきます。 また、発掘調査によって明らかになったことがらを、広く周知しています(活用や普及啓発は、文化財啓発事業で行います)。								
改善・対策の履歴	【平成25年度】発掘調査によって注目すべき成果があった場合、積極的にマスコミ発表し、市民が地域の歴史を再認識することをうながしました。 【平成25年度】限定された調査期間内で、発掘調査の成果を直接市民へPRする機会(現地説明会)を開催しました。 【平成26年度】本證寺境内が国史跡指定の答申が出された際のイベントでは、これまでの発掘調査の成果を来訪者にご覧いただきました。								

2 事業費(千円)、人員推移(人)

項 目	平成24年度	平成25年度	平成26年度		平成27年度
	(実績)	(実績)	(予算)	(実績)	(予算)
総事業費	53,607	55,185	65,112	60,571	72,499
財源計	39,180	39,372	49,362	45,577	57,820
財源の内訳	国庫支出金	2,000	2,200	2,200	2,200
	県支出金	0	0	0	0
	市債	0	0	0	0
	その他	71	1	557	1
	一般財源	37,109	47,161	42,820	55,619
受益者負担金	0	380	1	557	1
職員人件費 (従事職員数)	14,427 (2.29)	15,813 (2.51)	15,750 (2.50)	14,994 (2.38)	14,679 (2.33)
人事課予算分 人件費	0	0	0	0	0

3 各活動にかかるコスト			年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
活動1	活動名 (活動内容)	発掘調査・試掘調査	見込	35.00	40.00	30.00	30.00
			実績	35.00	55.00	35.00	
	指標名 (単位)	調査件数(件)	活動の総事業費(千円)	23,142	23,820	25,008	
			活動にかかるコスト(千円)	661.20	433.09	714.51	
活動2	活動名 (活動内容)	発掘報告書	見込	2.00	2.00	2.00	3.00
			実績	2.00	2.00	3.00	
	指標名 (単位)	刊行数(冊)	活動の総事業費(千円)	30,465	31,365	35,563	
			活動にかかるコスト(千円)	15,232.50	15,682.50	11,854.33	
活動3	活動名 (活動内容)		見込				
			実績				
	指標名 (単位)		活動の総事業費(千円)				
			活動にかかるコスト(千円)				

4 成果指標と実績の推移

指標名(単位)				年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
成果1	住宅着工前に発掘調査を終えることのできなかった数(件)			目標	0.00	0.00	0.00	0.00
				実績	0.00	0.00	0.00	
	目標達成年度	目標成果指標値	0.00	達成状況	達成	達成	達成	
成果2	発掘調査の結果が大手マスコミで取り上げられた数(件)			目標	1.00	1.00	1.00	1.00
				実績	1.00	5.00	3.00	
	目標達成年度	目標成果指標値	0.00	達成状況	達成	達成	達成	

5 成果1、2以外の成果

成果	平成26年度には、本證寺境内が国史跡に指定されました。この答申を受けたイベントでは、調査成果をパネルにまとめて発表しました。また、本證寺境内の確認調査において現地説明会を開催しました。 調査成果については、「広報あんじょう」での特集記事をはじめ、各町内会のふれあいまつりやまちかど講座などで発表・普及しています。 「桜井古墳群保存管理計画」を受けて、平成27年度には、塚越古墳の範囲確認調査を実施します。 平成27年度予算で収蔵庫の積層棚が採択され、収蔵量が大きく伸ばせることになりました。
----	--

6 各活動にかかるコストと成果の分析

内部の取組や外部要因が与えた影響、課題等	
活動コスト	平成26年度は、前年度の消費税増税前の個人住宅建設も落ち着いたために発掘件数は減少しましたが、調査期間が長期化したものもあり、事業費は上昇しています。 また、整理作業においても、2冊の予定に対して、3冊の発掘調査報告書を刊行することができました。このため、事業費が増加しています。
成果	平成26年度も、迅速な対応と効率的な調査によって、工事計画に影響を及ぼすことなく乗り切ることができました。 大手マスコミでの記事の数は、目標を達成しましたが、平成25年度より減少しています。どうすれば記事として取り上げていただけるのかは、今後も研究していかなくてはなりません。 平成26年度に引き続き、27年度も発掘調査報告書3冊の刊行を目指すことにしました。

7 所属長の改善案

コスト・成果について、事業の分析を踏まえた具体的な改善案
今後も、住宅建設等の工事計画に影響を及ぼさないよう、迅速で効率的な発掘調査を実施してください。 発掘調査の成果は、新聞などのマスコミだけでなく、様々なメディアを通じて情報発信してください。特にICT技術の導入を考えってください。 また、文化財啓発事業において、展示や出前講座などを充実させることにより、発掘成果を地域に還元できるようにしてってください。

8 方向性

必要性、効率性、有効性を踏まえた事業の方向性	
維持・継続	本事業の調査は、ほとんどが住宅建設等の開発行為にともない、文化財保護法に基づく発掘調査及び報告書作成が必要事項となっているものです。当然のことながら、調査の精度や水準は維持しなければなりません。さらに、その後の活用や普及啓発のことを考えれば、行政による調査が維持継続されることが適切と考えます。

事務事業調査

平成27年度

事業No	949	課	文化振興課	係	学芸係	起案者	天野信治
						決裁者	牧浩之
事務事業名	史料整理活用事業				事業種別	市民サービス	

1 事業概要

総合計画体系	4 個性と文化を育む環境づくり 4 文化・芸術 2 文化財 2 文化財の保護と育成 1 調査・保存管理の推進			予算科目(会計)		一般会計	
				予算科目(款・項・目)		50-25-70	
				総合計画以外の計画			
				関連する総合計画の施策			
				性質区分	特定の市民や団体を対象にしたもの		
根拠法令	無						
法定受託事務	無						
公約・議会答弁	無						
陳情・市民要望	無						
実施方法	一部委託	委託先	民間企業				
実施期間	開始	平成20年度	経過	7年目	終了	期間	
求める成果 (目的)	誰(受益者)が	安城の歴史や文化に興味のある人が			~になる	市内の文献資料を通してより深く関心をもてるようになります。	
事務事業の内容	市史編さん事業により刊行した新編安城市史等の幅広い活用を促すとともに、執筆の根拠となった古文書等の資料、マイクロフィルム、複製コピーなどの貴重な文化的財産を整理・保存・公開します。 また、未だ旧家・町内会・寺社等には未公開・未整理の貴重な歴史資料が多数存在し、それらの調査・整理・保存・公開を行います。						
改善・対策の履歴	平成21年度に学芸係の工作室と、文化財係の資料室それぞれの資料受け取り体制を一本化。文書資料の目録情報の統一化を行いました。						

2 事業費(千円)、人員推移(人)

項 目	平成24年度	平成25年度	平成26年度		平成27年度
	(実績)	(実績)	(予算)	(実績)	(予算)
総事業費	13,338	12,166	16,237	14,230	15,845
財源計	10,503	9,331	13,402	11,395	13,010
財源の内訳	国庫支出金	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0
	市債	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0
	一般財源	10,503	9,331	13,402	11,395
受益者負担金	0	0	0	0	0
職員人件費 (従事職員数)	2,835 (0.45)	2,835 (0.45)	2,835 (0.45)	2,835 (0.45)	2,835 (0.45)
人事課予算分 人件費	0	0	0	0	0

3 各活動にかかるコスト			年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
活動1	活動名 (活動内容)	古文書整理	見込	5,000.00	5,000.00	5,000.00	5,000.00
			実績	2,859.00	4,405.00	11,884.00	
	指標名 (単位)	目録件数(件)	活動の総事業費(千円)	6,701	5,465	6,610	
			活動にかかるコスト(千円)	2.34	1.24	0.56	
活動2	活動名 (活動内容)	既収蔵民具の清掃	見込	1,500.00	1,500.00	2,000.00	2,000.00
			実績	1,938.00	1,623.00	229.00	
	指標名 (単位)	清掃件数(件)	活動の総事業費(千円)	4,446	3,597	4,175	
			活動にかかるコスト(千円)	2.29	2.22	18.23	
活動3	活動名 (活動内容)	収蔵品の棚卸し	見込	10,000.00	10,000.00	10,000.00	10,000.00
			実績	10,000.00	10,000.00	11,000.00	
	指標名 (単位)	棚卸し件数(件)	活動の総事業費(千円)	2,191	1,679	2,203	
			活動にかかるコスト(千円)	0.22	0.17	0.20	

4 成果指標と実績の推移				年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
成果1	指標名(単位)			目標	62,000.00	72,000.00	70,000.00	72,000.00
	博物館収蔵資料点数(点)			実績	62,893.00	66,312.00	69,763.00	
	目標達成年度	目標成果指標値	0.00	達成状況	達成	未達成	未達成	
				目標				
成果2				実績				
	目標達成年度	目標成果指標値		達成状況				

5 成果1、2以外の成果	
成果	資料調査活動や文書資料整理活動が、工作室・資料室の体制再編により、それぞれの分野で役割を発揮できました。

6 各活動にかかるコストと成果の分析	
内部の取組や外部要因が与えた影響、課題等	
活動コスト	古文書整理は、史料の判読難解、平易の差で大きく変わるので変化が生じます。古文書解読や歴史知識などの専門性が必要な場合があります。平成23年度からは受け入れ体制を一本化し、過去の受け入れ資料の確認に重点を置いて活動したため、古文書整理の量が減少し、単価が増加しました。
成果	資料整理作業は、整理対象となる資料の内容・性格または、他の博物館事業の補助等によって時間あたりで処理できる点数に増減が生じます。

7 所属長の改善案
コスト・成果について、事業の分析を踏まえた具体的な改善案
歴史資料は、古文書だけでなく現代の資料も貴重なものがあることを市民に啓発し、調査活動につなげていきます。

8 方向性	
必要性、効率性、有効性を踏まえた事業の方向性	
維持・継続	これまでの調査により、今まで不明であった市内各地の地域の歴史が相当明らかとなりつつあります。今後も可能な範囲内で地域の歴史を掘り起こす努力をしていく必要があります。